

平成 21 年度 第 1 回関東ブロッククラブミーティング 2009 開催報告

日 時 : 平成 21 年 6 月 6 日 (土) 13:15~17:00

会 場 : 岸記念体育会館 講堂

岸記念体育館（東京都渋谷区）にて、平成 21 年度関東ブロッククラブミーティング 2009 が開催された。関東ブロック創設支援クラブの代表者をはじめ、都県体育協会関係者、クラブ育成アドバイザー、関東ブロック地方企画班員、助言者の方々を含め 106 名の参加があった。

本ミーティングでは、「クラブづくり “はじめの一步” と “次の一步” 」というメインテーマを掲げ、東京都クラブ育成アドバイザーの伊倉晶子氏の情報提供、創設支援 1 年目クラブと創設支援 2 年目クラブに分かれてのグループディスカッションが行われた。

<情報提供> (情報提供者：東京都クラブ育成アドバイザー伊倉晶子氏)

伊倉氏より創設支援クラブに対し、「私たちがクラブを楽しむために」と題して次の 3 つのポイントに沿って話が進められた。

① 「理念」が大事なわけ

「理念」は「人」をクラブにまきこむ道具である。クラブを楽しめないワケ、クラブが発展しないワケは、「人」が増えないことにある。いかに多くの「人」をまきこめるかがクラブの生命線となる。そのために、多くの「人」をまきこむために必要なことは、理論や理屈よりも「共感を得ること」であり、年齢も経験も異なる多彩な人に対して正確に同じ内容の説明をするとともに、言葉だけではなく眼に見える「カタチ (文や絵)」であらわした「理念」が有効な道具となる。



② 理念のカタチづくり (はじめの一步)

共感を得ることができる「理念」は、自分たちの思い (信念、夢、希望)、地域の特性、実態 (現状)、社会的ニーズ (社会全般の課題、流行等) がうまく調和されることで成り立つ。そして、自分たちの思いは基本的には変わることのないものの、地域の特性、実情や、社会的ニーズは常に変化するものであることを考慮する必要がある。

また、「共感が得られる理念」にするポイントとして、「違いがはっきりしていること」、「言葉がわかりやすいこと」、「地域や時代にならなっていること」の 3 点が重要であり、次の世代の目線で考えることが重要である。

③ 「理念」と「事業」は常にセット

「理念」は組織の存在意義を説明するもので、「事業」はそれを実証するものである。常に「理念」と照らし合わせながら「事業」を考えることが必要であるとともに、地域の変化、時代の変化に合わせて、「理念」のみせ方や「事業」を変える必要がある。

まとめとして、共感を得られる理念を柱にもち、理念にかなう事業を行うクラブには必ず仲間が増えてくる。仲間が増えるごとに課題はひとつずつクリアできる。課題をクリアするごとに、「ありたいクラブ、ありたい地域」に近づいて、クラブはどんどん楽しくなる。

私たちがクラブを楽しむためには、常に「志（こころざし）」の強さが求められる。

<グループディスカッション>（コーディネーター：地方企画班員 渡辺泰弘）

グループディスカッションは、創設支援1年目と創設支援2年目クラブに分かれて行われた。創設支援1年目クラブには“はじめの一步”と題して、理念づくりを体験し、今後のクラブづくり、地域の将来プランを設計することを目的とした。一方、創設支援2年目クラブには“次の一步”と題して、クラブの「理念」と現在進行中の事業、これから行いたい事業との整合性をチェックすることを目的とした。



以下、地方企画班員が進行を務めたグループでの協議内容について報告をする。

<創設支援1年目クラブ（Hグループ）>（進行：地方企画班員 清水 透）

創設1年目の6クラブが集まるHグループにおいて進行、助言役を務めた。

各クラブは、誕生したばかりのクラブであり、今後の方向性や地域との連携等については現在模索をしている段階であることから、具体的な作業に入る前に「理念」をイメージしやすいように、まず次の2点について確認した。

1点目が「地域が抱える課題や特性を再認識すること」である。「地域スポーツクラブ」の意義は、地域の実情を踏まえたクラブであり、地域のニーズに応えることができるクラブである。このため地域における課題の解決や特性（資源）の活用を「理念」においてイメージすることにより、クラブはより地域住民に理解されやすくなるのである。



2点目が「理念は、スポーツの前後のクラブライフを含めて創造すべき」ということである。アフタースポーツのお茶タイムや各種イベントなど、ストレスから解放され会員同士が交流を図ることができる時間は、クラブが持つ最大の特徴であり、このこともしっかり念頭に置いて「理念」を考える必要があるということである。

これらを踏まえ、理想的なクラブ像や実施したい活動について発表し合ったが、まず各クラブの地域においては、特徴的なイベントや特産物、地域活動に熱心な人材、伝統的な行事、豊かな自然など、他の地域に誇ることができる豊富な資源を有していることが確認できた。併せて超少子・高齢社会の現状や貧弱なスポーツ施設、不足がちなマンパワー、乏しい財源、得にくい行政協力、母子や高齢者がスポーツを楽しめる環境不足など、多くの課題やニーズがあることも報告された。

そしてクラブによる地域資源の活用方法について建設的な意見が飛び交うなど、テーブルは予想以上の盛り上がりを見せたが、時間的な制約もあり各クラブは発表した「現状」を明確に「理念」

として文章化するまでには至らなかった。

しかし、終盤には「理念」に直結するであろうキーワードを数多く抽出することができた。それは、「多年代」「伝統」「子どもからお年寄まで」「連携」「健康」「企業」「トッププレイヤーの育成」「生涯青春」「生涯仲間」「三世代百歳まで輝く」「子育て世代」「慰問」「地域力向上」「1回300円」「誰でも参加」等々である。

各メンバーには、それぞれのクラブに戻られた後は抽出したキーワードや地域の実情を踏まえて議論を重ね、ぜひ地域に認められる「理念」をまとめていただきたいと思う。

<創設支援1年目クラブ（Iグループ）>（進行：地方企画班員 小野里順子）

栃木県、群馬県、千葉県、神奈川県から2クラブ、計5つの創設支援1年目の代表者が集まりグループディスカッションを始めました。

子どもたちの指導に携わりながら活動をされている方が3人、行政サイドの方が1人、フィットネス指導者が1人でした。それぞれの思いはありますが、理念という言葉の意味合いを説明するため、辞書を引いて調べた言葉を伝えました。理念の理は「理性の理」好き嫌いの感性にとらわれず物事の道理を判断します。理念の念は「概念の念」一般的な考え方をいいます。皆さんが自分のクラブはこうありたいという根本的な考え方をシートに書いてくださいとお話したところ、作業を始めるとペンが進み、それぞれの思いを時間内にまとめいただきました。発表内容は下記のとおりです。



○栃木県のクラブはゼロからのスタートということでスポ少を巻き込み、心地よい汗を流し安らぎの場を与えたい。手軽にできるスポーツを行う。

○群馬県のクラブは健康づくり、コミュニケーションの場、選手育成など既存体育協会等をうまく活かし進めたいという方針。

○千葉県のクラブは健康的なスポーツを子どもから高齢者まで健康的な生活を送れる社会づくり、コミュニ

ティーの場、など体育指導員や既存団体を活かしておこなう予定。

○神奈川県のクラブは人と人とのふれあいの中での人間形成、心と体を元気にする。イベントや教室の開催、指導者の育成を行う。公民館など他の団体と合同開催を行う。

○神奈川県のクラブは陸上を中心に競技選手育成をおこなう。ジュニアの一貫指導を確立したい。全市対象にニュースポーツも取り入れたクラブを目指す。

全員共通しているところが「子ども」「健康」「コミュニティーの場」この言葉がそれぞれのクラブから出ていました。「楽しくスポーツの好きな子どもたちを育てること」これも立派な理念であり「競技選手を目指し一貫指導できる仕組みを構築したい」これもすばらしい理念だと思います。理念は自分だけのものではないので仲間としっかり共通認識をしてつくること。そして、今日話した理念と明日話した理念が日々変化しないよう進めることとお話ししました。理念が定まるとどういう活動を行うかといったようにやるべき事業が見えてきます。その事業を進める中でヒントとなるかと思い、ある経営コンサルタントのお話をしました。会社の大事なことを決める会議は5～6人が一番よいということ。それ以上は同席していてもお客さんになってしまうそうです。5～6人のしっかりした人材で基礎を固め運営スタッフを募るとうまくいくケースが多いこととお話し

した。また、創設1年目なので理念のことだけでは意味がわかりづらそうでしたので理念を元に事業発展してゆくプロセスをお話しさせていただきました。後半は時間が足りないくらい皆さんの会話が進んでミーティングが終了した後もそれぞれ情報を交換している様子がかえりました。

<まとめにかえて>

クラブづくりは設立すれば終わりではなく、ようやくスタートラインに立つわけである。これから様々な困難にぶつかり、その困難をクラブ員、あるいは地域住民が一体となって、ひとつひとつ解決していくこと、地域に対してサービスを提供することが求められる。そして、日常生活圏の中で「地域に対して何ができるか?」という「志」を持って活動することが求められる。そのことを確認する事ができたクラブミーティングであり、有意義な時間を共有できたことに感謝したい。

(文責；関東ブロック地方企画班員一同)